

10 5か年計画特別委員会における秋山文和県議の質疑

2016年10月13日

付託議案に対する質疑

Q・秋山委員

日本の中で最も早いスピードで高齢化が進むということは、世界一のスピードで高齢化が進むということである。医療・介護人材や医師確保などの課題を解決し、世界一という危機を克服する見通しはあるのか。

A・計画調整課政策幹

医療や介護の担い手の確保については、本県はこれまでも精一杯の努力をしてきたところであるが、次期5か年計画では異次元の高齢化を踏まえて、人材育成・確保から職場の定着までしっかりと支援していく。具体的には施策6「介護人材の確保・定着対策の推進」、施策8「医師・看護師確保対策の推進」と、それぞれ独立した施策を設けて取り組みを進めていく。

Q・秋山委員

現行計画の指標で、24時間の定期巡回・随時対応サービスを利用できる市町村数、介護人材の育成人数など進捗評価Cの実績の指標がある。過去や現在進行中の5か年計画でもなかなか達成できない状況がある中で、これから世界一のスピードで埼玉県が高齢化を迎える。次期5か年計画では、これに特化してやるくらいのことが必要ではないか。進捗評価Cの指標をAに転換していくために、どうするのか。

A・保健医療部副部長

団塊の世代が75歳になる2025年への対応が大きな課題となるため、そのための準備を

進めていく。2025年の安心・安全な保健医療体制の確保のため、医療機能の分化や連携、地域包括ケアシステムの導入などによる地域医療体制の充実、健康寿命の延伸や生活習慣病予防対策に取り組んでいきたいと考えている。

生活の安心を確保していくためには、その基盤として医師や看護師など医療人材の確保、高齢化に対応した地域医療体制の充実など様々なことに取り組みなくてはならない。次期5か年計画では、5年後の姿や2025年の状況を具体的に念頭におきながら対応を考えていくことが必要である。個別計画でも、来年度予定している第7次保健医療計画の策定作業において、将来の医療需要を踏まえた医療資源の充実や環境整備に努めていきたい。